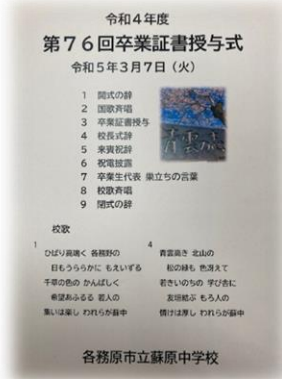


<卒業証書授与式>

校長 佐藤 幹彦



令和5年3月7日(火)に、「令和4年度 第76回卒業証書授与式」を挙行し、238名の卒業生を無事に送り出すことができました。今年度は、コロナ対応をする中でも、国歌及び校歌の斉唱、生徒全員の呼名、保護者の参加を2名まで可としました。また、国や県からの通知等を踏まえて、入退場時など、生徒が主役となる場面ではマスクの着脱を個人判断としたことや、卒業式終了後の最後の学級活動も十分な時間を確保するなど、卒業生のために、できる限りの準備をしたつもりです。

当日は、大変天気も良く穏やかだったこともあって、約500席用意した保護者席もほとんど埋まり、生徒・教員数と合わせて、体育館内に約800人近くが集まりましたが、大変落ち着いた厳粛な雰囲気の中、滞りなく無事に式を終えることができ、本当に良かったと思います。

今年の卒業生は、小学校を間もなく卒業するという3月2日から、「全国一斉の臨時休業」が始まり、新しい仲間との出会いと明るい笑顔にあふれる日々を迎えるはずであった中学校生活のスタートがきちんと切れないうまま、時だけが過ぎていきました。学校が始まった後も様々な感染予防対策を余儀なくされるなど、ずっとコロナ禍に翻弄されてきた学年です。

でも生徒たちは、最上級生として、「自分たちを律し、仲間を尊重しながら、より良い蘇原中学校を創造していこう」と、常に「元気」で「笑顔」を絶やさず、様々な教育活動に「前向き」に取り組んでくれました。また、代表生徒から、「コロナ禍での学校生活」をとおして、「当たり前の日常に大切さ」と「変化に対応する力の重要性」をあらためて感じたと聞いて、彼らになかなか「楽しくて「密」な中学校時代」を送らせてあげられなかった私たち教員の思いも、少しは救われた気持ちになりました。

238名の卒業生は、4月からそれぞれの進路先で、「新たな自分づく

り」のスタートを切りますが、これからも、困難に直面しても決してあきらめず、しっかりと「前」を向いて、一步一步確実に歩いていってくれることをずっと願っています。